

8. 地域の水環境保全活動で水生生物調査に参加して

会員 菊地 宗光

2023年8月20日に、地域で水環境保全を行っている団体の依頼により、河川の水質と水生生物調査の講師として現地での調査と水質判定の解説を行った。

あらかじめ役員さんが採取した、上流と下流数カ所の河川水を、公民館内でバックテストにより、pHとCODの違いを確認した。上流部はCODが低く、人家がある地域ではCODがすこし上昇し、きれいな支川が合流すると下がる事が確認された。

その後、公民館脇の河川で水生生物を採取し、環境省の「水生生物による水質評価法マニュアル」に従って水質判定を行った。

阿武隈山系の山間地を流れる河川の最上流部に位置し、水質は比較的きれいな地区である。

サワガニやヘビトンボの幼虫、ヤゴ等が見られ、きれいな水(水質階級Ⅰ)からややきれいな水(水質階級Ⅱ)に区分されると判定された。



写真上：河川で水生生物の採取風景

写真中：サワガニ、ヘビトンボ幼虫、ヤゴ

写真下：ヘビトンボ幼虫、トビケラ類

9. 布から眺めた温暖化

会員 熊本 隆之

正直なところ、偶然の気づきでした。趣味は？と聞かれると、「菜園」と答えています。本当は少年期から中々の数の部活をかけもったり、地域の自転車イベントに出かけたり色々とおるのですが、それでも菜園です。そこからの話がとても盛り上がるから。そして、一番楽しいから。

菜園でなにをやっていますか？と聞かれると、季節ごとの気づきがぼろぼろと出てきます。お詳しいのですね、と言われるととんでもない。まったくわからない、手習いさえない手探りの中で遊んでいるだけなのです。それなりに調べはしますがチャレンジ先行で失敗ばかりしています。おそらく農家様やガーデニング愛好者には非常識に映るでしょう。

最近のはやりことばに「VUCAの時代」というものがあります。変動性、不確実性、複雑性、曖昧性の英語名の頭文字をとったもので、予測が難しく変化が激しい社会情勢をいかにのりきるのかを示し、私も若者向けの講義でよく使っています。環境においては、わかりやすい環境問題が一巡しわかりにくい問題への対処が要されること（例えば急性神経毒性ではなく多因子性の神経発達障害の予防を目指すこと）、温暖化のように古くから指摘されているにも関わらず対策が単純でないものが挙げられようかと思います。では、それをどう乗り切るのか。コンサル業界は危機察知や組織改革を、教育業界はリカレントを叫ぶでしょう。そしてどの文脈も共通して、今の常識にとらわれるべきではないことを口にします。

私は非常識にも、綿を植えました。それは単なる偶然、当初は環境素材として注目されるケナフを自分で試すつもりが、高さが3mを超えそして見た目が大麻そっくりであること。それは困るとたいした考えもなく綿を選んだ次第です。そして、後から知りました。東北で綿はありえないことを。関東が北限です。



東北には桑畑（蚕・絹）があり、麻繊維として大麻（いまでこそ乱用薬物の意味になっておりますが日本古来の繊維型大麻。大麻としか言いようがありません）や苧麻（イラクサ、昭和村のカラムシ）が、あるいは山形のシナ布のような樹木型線・・・先人の知恵が色濃くありますが、綿の産地はおそらくありません。津軽に行くと「こぎん刺し」が土産店に並びますが、それはまさに用の美。通気性はよいが寒い冬を乗り越えるには辛すぎる麻繊維を、どうやって貴重で高価な木綿でもって保温するか考えた知恵。先人たちに申し訳がたちませんが、福島のカブトの産地にて綿の生育と綿花の収穫をごく自然にできました。1株から両手に余るほどの綿が、数株から綿菓子ほどの綿花がとれたのです。

もしやこれは新規性のあることなのか？と見渡すと、それなりに進んでいることのようにです。例えば東北コットンプロジェクトとして津波塩害地域での栽培、ビッグパレットの環境フェアでは郡山駅前のふとんやが綿花の種を配っていました。

そろそろ本題に戻らねばなりません。私の論旨はただ一つ、「適応策を、楽しもう」。温暖化は負の側面が強調され、それもその通りではありますが、その一方で適応策には夢があります。伊勢エビが来た、雲州ミカンができる。かぼすもできる。これを使って何をしよう。私のカブトは伊豆大島の明日葉が育ち、すだちは越冬した様子です。四国や九州に行くとすだちにへべす、珍しい柑橘類がたくさんあります。土着の亜種はこれが全てなのだろうか。花卉は、漢方は、生薬は。常識とされるものを一旦外し、VUCA を乗り切る柔軟性をもつほど楽しみが増え、そしていかに自分が無知であるのかを知らされます。

温暖化関連に関してはもう一点、福島県主催の COOL サポーターの参画があります。温暖化対策は息の長い話題であり次世代リーダーと協力者の育成が急務となっております。福島県においても事業として取り組まれ、所属大学の学生3名と参画し他大生とディスカッション、郡山駅前エリアでのイベント推進と発表を行っております。

10. 環境カウンセラー2年目の活動

会員 佐藤 公俊

昨年は、福島環境カウンセラー協会にて監事という仕事を任せられました。それにともない理事会にも出席させていただき、理事の皆さんのお話を聴く機会も多くなり、それまで知らなかった会の活動等についていろいろと勉強させていただきました。

正式に環境カウンセラーとなって2年目となりましたが、仕事が忙しいのを理由とし、活動が少なかったと反省しています。もう少し環境カウンセラーとして、いろいろと活動せねばと思っています。

昨年、「環境教育インストラクター」という環境教育に関する認定制度が始まったので気になっておりました。昨年からスタートということで、情報を集めているうちに認定の申し込み期限が過ぎてしまいました。環境教育ということで、自分の興味があることですので、2024年度にも行われるようなら、ぜひチャレンジしてみたいと思っています。

昨年の前半は、自分が所属している日本大学工学部の生命応用化学科で、「環境科学」、「環境分析化学」、「環境プロセス」の3つの授業に時間をかなりとられました。コロナ対応が終わり、ほとんどの学生とは教室で対面授業に戻ったのですが、オンライン授業をする必要がある学生が一部おり、同じ学習内容で対面とオンラインの二つの授業の準備をする必要があり、かなり時間が必要となりました。そのように苦労して行った「環境分析化学」と「環境プロセス」でしたが、当学科のカリキュラム見直しで2024年度からは「開講なし」となりました。授業担当者として任が解かれてホッとしたものの、残念な気持ちもあります。授業する上で学んだことを地域にどうにか還元できないかと考えております。

昨年の後半では、院生の修士論文の指導にかなり時間がとられました。スマートフォンのカメラ機能を使って吸光光度法の代用とするRGBスペクトラム変換法という手法を用いて、水中に溶存する有害成分（ヒ素と鉛）の測定を行うという研究です。高価な分析機器を使わずとも目的の物質を簡単に分析することができ、装置の購入が難しい地域や企業などでも利用できる技術なので、院生の指導を通して少し環境水の水質分析に貢献できたのではないかと考えております。

以下、昨年度の当研究室で行った環境に関わる研究活動について簡単に書きます。

(1) 火山活動による五色沼への影響：磐梯山の火山活動が近年活発になってきています。火山の活発化は、五色沼の水質に影響をあたえ、五色沼の色が変化することが予想されます。当然のことながら福島県の観光に大きな影響をあたえます。

地下水を水源とする銅沼（あかぬま）系の沼を中心にイオンクロマト分析を行い水質調査いたしました。その結果、火山活動が、硫酸イオン、pH等に影響をあたえていることがわかりま

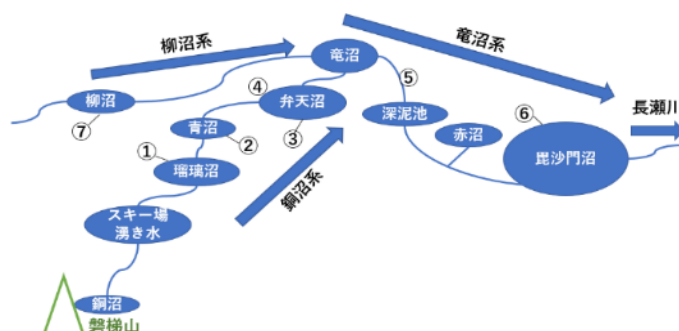


図1 五色沼の採水取地点

した。今後も火山活動の活発化が続くようなら、沼の色が変化する可能性があることがわかりました。

(2) 大滝根川の水質改善調査：大滝根川は、水質汚濁防止のため下水道事業や大滝根水環境センター等の稼働などの改善対策が行われました。16年前に当研究室で大滝根川の水質分析した箇所と同じ箇所から昨年採水し、大滝根川の水質がどのくらい改善しているのか、BOD、COD、イオンクロマト分析を行いました。その結果、水質汚濁防止対策以外にも、原子力事故や地域の人口減、農業人口の減少なども影響し、水質は改善されていることがわかりました。



図2 大滝根川の採水地点

(3) 凝集塊のりん資源の検討：猪苗代湖を酸性湖にしていた酸性水が流れる長瀬川があります。その長瀬川の川底や猪苗代湖の合流地点には、中和過程で形成される「凝集塊」と呼ばれる底質物質が沈んでいます。長瀬川の上流の沼尻元湯からはりん酸イオンが湧き出ています。その凝集塊にもりん酸を含みます。川底に沈む凝集塊を回収すれば、地域の農業で使っているりん肥料をまかなうことができるのではないかと調査を行いました。その結果、たしかにりん酸は含まれていましたが、りん肥料としての使用には、さらに多くの検討が必要なことがわかりました。

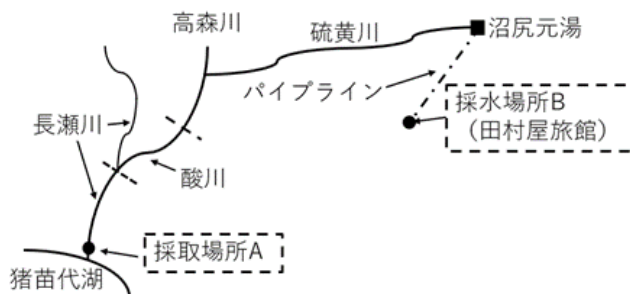


図3 採水、凝集塊の採取地点

(4) 鹿沼土のりん酸吸着特性：国内で持続的に農業を行うためにはりんが必要です。しかし、りんは100%輸入に頼っていることから、その供給は不安定です。下水処理場や食品加工工場等から現在、環境に廃棄されているりんを回収する技術が必要です。すでに Hap 法、Map 法などがありますが、高価な設備が必要となります。天然に産するモノで安価で手に入りやすい鹿沼土に着目しました。鹿沼土をりん酸の回収材に利用できるか、りん酸吸着の特性について検討しました。その結果、鹿沼土はりん酸の吸着材としての性能があることがわかりました。

以上、個々の細かい実験結果は省きますが、毎度のことながら、学生たちと対話を通して、アイデアをもらったり勉強しあって、楽しく環境についての研究をすすめることができました。

環境カウンセラーであることを活かし、これからも環境に役立つ興味ある研究に取り組んでいきたいと思っています。

11. うちエコ診断をとおしてカーボンニュートラルへの道

会員 小野 信彦

株式会社リビングソーラー 代表取締役

うちエコ診断は、家庭における CO2 排出削減にむけた取り組みの一つでございます。弊社は環境省が 2014 年度に創設した初年度よりうちエコ診断実施機関として活動をして参りました。

昨年度は「福島県地球温暖化防止活動推進センター」様との連携により、広範な活動を展開することが可能となった結果、福島県内で約 10 件のうちエコ診断を実施することができました。



うちエコ診断を通じて、家庭内で実行可能な具体的な改善策を家庭に提案し、それぞれが環境に配慮した生活を送れるよう支援することが目的としています。診断をさせていただいた家庭の方は、普段から光熱費への意識が高く、診断をするまでもないほどに、対策をされている方がほとんどでした。弊社としても大変刺激になり、様々な取り組みをされていることがわかり、勉強になりました。

新年度に当たる 2024 年度には、地元「いわき市環境企画課」様とも連携し、SDGs 活動や学校の出前授業を推進する計画です。これにより、カーボンニュートラルを目指した活動をさらに強化し、地域全体の環境意識の向上を図る予定です。うちエコ診断を受けることで、個々の家庭が省エネルギー対策や地球温暖化防止へ積極的に取り組む意識が高まることを期待したいと思います。

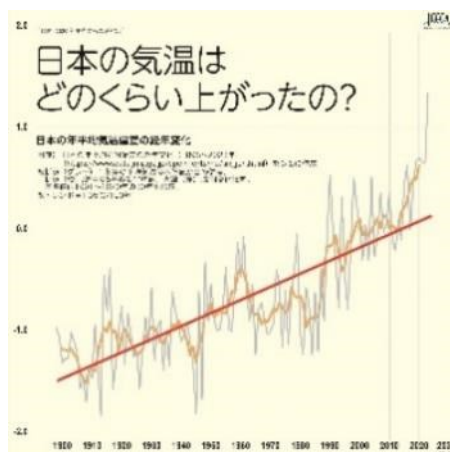
ご存知の通り福島県は「2050 年カーボンニュートラルロードマップ」を策定し、民生家庭部門では 2030 年度までに 2013 年度比で 63%、2050 年度までには 97%の二酸化炭素排出量削減を目指しています。この目標達成には、各家庭における具体的な行動変化が不可欠であり、うちエコ診断はそのための重要なツールです。今後も弊社は、福島県地球温暖化防止活動推進センターや地域自治体と協力し、うちエコ診断を含む多様な環境保護活動を積極的に展開してまいります。地域住民の皆様には、この機会を活かして省エネ及び環境負荷の低減に向けた取り組みを進め、共に地球環境の保全に貢献していただきたいと思います。

12. パッシブデザイン探求・堰と里山ボランティア（本木・早稲谷）

会員 相楽 昌男

◆ パッシブデザイン探求

1) 初めに 2023年（令和5年）15地点の観測値による日本の平均気温偏差は+1.76℃、1898年以降では最も高温に。特に北に行くほど大きく上昇しています。右図 出典：JCCCA



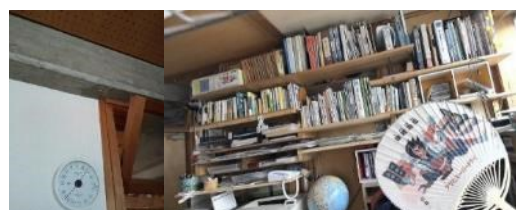
2) 我が家の半地下室での夏の熱環境対策

7月～8月は下室で除湿対策の季節。アメダスでチェック！
 去年は7月下旬からお盆までに除湿機4時間稼働を7回程でした。7月13日に湿度70%を超えたので3時間弱稼働。

点線枠の範囲が対策検討期間です。1回あたり、夜間@28円×0.34kw×3h≒29円。出来ればセンサーで自動と思いますが弱電は苦手なので断念。

気候変動のせいか去年は半月早い。気温と蒸気圧が気になります※右図参照

地下室は34年経過。様々な湿度対策をしました。コンクリート壁にはシート防水の上に外断熱、壁内にはシリコン系調湿材の「ケツロナイン」塗布。床はコルクタイル。非電化工房の除湿器と除湿シートも。電気使用の除湿機（340W）は湿度70%越で稼働。でも1階とは約5℃の温度差、最大時は10℃の温度差。あとは被服とうちわで凌ぐ。ギリギリ楽しみながら省エネです。これ以上の高温はエアコン無しでは限界！



3) 南面駐車場コンクリートからの輻射熱

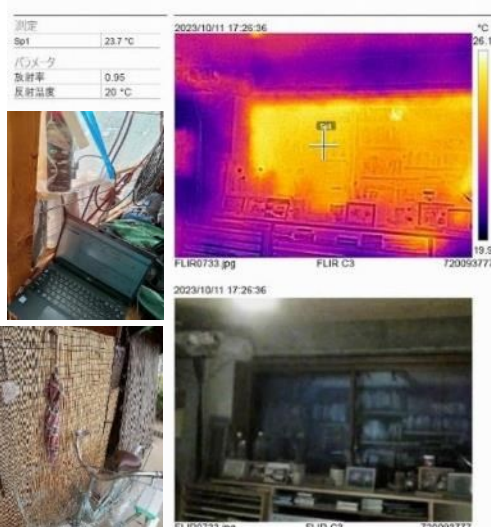
冬のみ直射日光が当たるので夏の蓄熱は考えていなかった。ところが南面駐車場コンクリートからの輻射熱が予想外に大きく蓄熱水温は30℃近くになり夜間でも外気温より高くなり遮熱処置。右：熱電対測定調査状況

右：夜の地階窓採熱室側をサーモグラフィ画像撮影

周囲建物からの輻射熱対策は今後の課題です。

右：急遽、採熱室南側からの輻射熱を防ぐため、よしずを設置。今後、輻射熱の遮断方法を再検討

FLIR



◆ 堰と里山ボランティア（喜多方市の本木・早稲谷）

本木・早稲谷 堰と里山を守る会のボランティアに参加 ※5月の堰浚いは宗像さん日大生参加

□2023年11月3日～4日。本木・早稲谷 堰と里山を守る会の災害ボランティアに参加。春に続いて、昨年8月3～4日の豪雨災害の復旧水路補修作業。

1日目は約10名で約30カ所が残っている災害現場の半分を視察。

以前設置した「しがらみ」が頑丈に残っていた。

夜は地元の野菜を主においしい料理と堰祓い地酒を堪能。皆さんの自己紹介。他の皆さんはほぼ県外で10年以上のベテランぞろい。会話に弾みすぎて次の日に二日酔い。

2日目は地元の方を入れて約20名で水路補修作業。ボランティアは下流側を主に土嚢積みで当初予定より参加者が増えたので早めに終了。今年の紅葉はかなり遅れているとのこと。温暖化の影響ではとの話。昼食前にみんなで直売場のおいしい野菜など調達。

皆さんの継続的な努力に敬服いたします。



□2024年3月30日～31日。本木・早稲谷 堰と里山を守る会の雑木林再生ボランティアに参加。

雑木林再生班とは別にビオトープづくりと虫ハウスづくり

以前あった田の跡にビオトープづくりと雑木林の中に虫の会の酒井さんと横浜の佐々木さん家族で虫ハウスづくり。どんな生き物が現れるか楽しみ！私もお手伝いしました。

最近流行りらしい？



※5月5日での元木上堰 春の浚いボランティア中田哲也さんの報告では「竹などで手づくりしたインセクトホテルには、多くのハチが出入りしていました。

自然の中につくられたビオトープには多くのアメンボ。これから様々な生き物が増えていくことが期待されます。」とのこと



※会報で雑木林再生についてのその後は次年度に5月の堰祓いと合わせ報告予定

13. 休耕田などを活用した集落のビオトープづくり参考事例

元会員 宗像 亮（協力：相楽 昌男）

【二本松市旧東和町の布沢集落】

■2017年 有機田んぼをビオトープへ活用

布沢集落による地域の生き物居場所づくり

集落の持続可能な活動：人と自然をつなぐ目的のビオトープづくりが始まりました。

■2018年 地元の東和小学4年生（総合学

習）にて田んぼビオトープの生き物調べ

コオイムシやヤンマ系のヤゴやドジョウ、ゲンゴロウなどを観察し地域の生き物を知る機会となりました。開放水面ができて：コオイムシ（準絶滅

危惧種）、ギンヤンマやゲンゴロウ（絶滅危惧種）やトンボ類も20種類以上確認され、色々な生き

物が里山のビオトープに集まってきました。（カワセミも見かけます。）

水深を20cm～30cm トンボのとまり木（竹筒）を設置 2018年 田んぼビオトープの生き物調べ



布沢集落（里山）の田んぼビオトープ開始
水源は山からの湧き水を利用 2017.06.18



■2023年 布沢ビオトープ（冬水田ん

ぼ状態）ができたことで、タニシ（写真

下）やモノアラガイなどが増えた。また春

先には二ホンアカガエルの産卵場所ともな

り、7月からみられるヘイケボタルのエサ

となる貝類が増えたことでホタルの生息環

境改善につながっているように思います。



福島大学黒沢研究室（水
草調べ）
2023年5月



東和小学校生き物調べ
（総合学習）
2023年7月

*ビオトープ及び周辺でみられる生き物 準・絶滅危惧種：赤字

両生類：アカハライモリ、トウキョウダルマガエル

ル、ツチガエル、シュレーゲルアオガエル、二ホ

ンアマガエル、二ホンアカガエルなど

甲虫：ゲンゴロウ（幼虫）、ガムシ、クロゲンゴ

ロウ、コオイムシ、ミズカマキリ、コガムシ、コ

シマゲンゴロウなど

トンボ類：モートンイトトンボ、アオイトトン

ボ、オツネイトンボ、モノサシトンボ、クロイト

トンボ、エゾイトトンボ、キイトトンボ、アジア

イトトンボ、ハグロトンボ、二ホンカワトンボ、

ギンヤンマ、オニヤンマ、クロスジギンヤンマ、シオカラトンボ、ショウジョウトンボ *赤トン

ボ仲間：アキアカネ、ノシメトンボ、マユタテアカネ、ネキトンボ、マイコアカネなど



タニシ（写真上）やモノアラガイなどが増えた

【二本松市旧東和町の白髭集落（相馬街道）】

■2022年 休耕田活用の白髭集落ビオトープづくり

2022年7月布沢集落からの紹介で里山観察会・田植え・稲刈り交流を通じて、その中でビオトープづくりの事例を紹介し集落の皆さんと意見交換。準備に入る。

■2023年 4月にユンボで整地 白髭集落の谷津田の休耕田をビオトープ活用（写真右上）

7月 だいぶ水草等が茂り、ビオトープらしくなってきました。（写真右）

7月 ビオトープ植物相調べを福島大学 黒沢研究室 集落の方々と希少水草の確認を行っています。（写真下）

コナギやオモダカとヘラオモダカも見られるようになりました。＊水深は15～20cm程度 水源は山からの湧き水を利用。

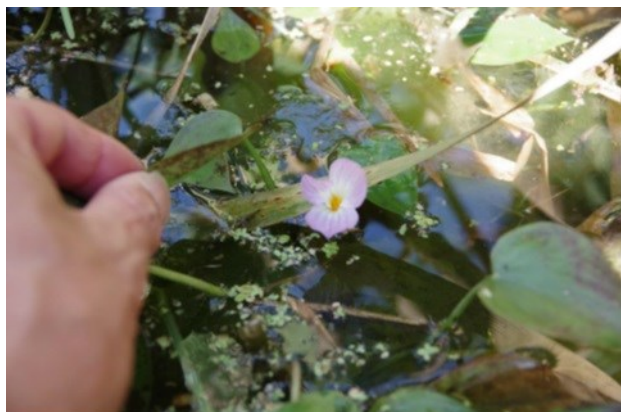
なお昨年から付近のため池を利用し、里山の生き物観察会を開催して今年で2年目となります。こちらは布沢集落より標高が高く、ゲンゴロウの仲間やトンボ類（オオルリボシヤンマ、ヨツボシトンボ、チョウトンボなど）が確認されています。＊無農薬のためか 布沢・白髭のビオトープ共通で埋土種子によるミズオオバコの芽生えやコナギ、オモダカ等が見られます。



2023年4月 休耕田をユンボで整地



2023年7月 休耕田の様子



2023年7月 ビオトープにミズオオバコ（絶滅危惧Ⅱ類）が発生 7～10月確認



7月 ビオトープ植物相調べ：福島大学 黒沢研究室 集落の方々と希少水草の確認



既存のため池で生物観察会



親子体験ワークショップでまとめ

14. ～相馬野馬追と人々の暮らし～

国指定重要民俗無形文化財 震災の苦難を越えて、脈々と引き継がれる

＜特別寄稿＞ 元会員 南相馬市 環境カウンセラー 長澤 利枝

平安時代中期、平将門が下総葛飾軍小金ヶ原(千葉県北西部)に於いて、野馬を敵兵に見立て騎馬で追って捕らえる訓練を行った。捕らえた馬を神前に奉納したことが、野馬追の始めと伝えられた。

相馬領地藩主祥胤公願文・・・**天下泰平・領内の安寧・世の中の平和・領内が繁栄すること・ひいては領民たちが幸せであることを祈願**し、その願いを神前に届けるため、野馬追を行いご神馬の奉納をした。

野馬追お行列・・・第19代相馬忠胤公供奉

相馬太田神社⇒中之郷(原町区)相馬小高神社⇒小高郷(小高区)

標葉郷(浪江町・檜葉町・大熊町)

しんがり・・・相馬中村神社⇒宇多郷(相馬市) 北郷(鹿島区)

の順に進軍する

《一日目》

お行列 400 騎の騎馬武者



《二日目》

野馬原への進軍・甲冑競馬・神旗争奪戦



野馬原へ進軍する各郷の軍者たち

人馬一体の勇壮な甲冑競馬

ハイライト 神旗争奪戦



数百騎の騎馬武者が、天中高く打ち上げられた二本の御神旗を奪い合う。

御神旗を鞭で絡めとった騎馬武者は、羊腸の坂を一気に駆けのぼり、本陣で褒賞を受ける。

激しい御神旗の奪い合いは、武者そのもの。

この日のために、訓練を怠らない。

将門が、軍事訓練と称して興したそのものだ。

一年間は、野馬追で始まり、野馬追で終わる。

羊腸の坂を駆け上る

《三日目》



野馬懸は「上げ野馬の神事」といわれ、小高神社境内に設え

裸馬を追い込み、白装束の御小人が素手でその荒駒を捕らえて、神前に奉納する古式に則った行事

荒武者が裸馬を竹矢来に追い込む 御小人によって神前に奉納 ご神馬となる

『七月は厳しい暑さで人馬、見物者に過酷であり、今年から野馬追は、五月最終土・日・月になった』

その1 《災害を乗り越えて野馬追に出陣》菅野長八氏(75才) 鹿島区

ちょうはち



1. 津波で妻・息子・娘・母親を亡くし、自分だけ残った。生きる気力を無くす。
2. 周囲の励ましで、「残された一人として、四人分生きよう」と決意。
3. 家族に不幸があった年は、野馬追出陣を控える」という決まりだったので、出陣はしない〜と決めていた。
4. 震災直後の7月、野馬追は「鎮魂と安寧」を祈ると決定した。家族の御霊を祈る思いで出陣した。
5. あれから13年、親交の深い中ノ郷侍大将今田氏の励ましに救われた。
6. 野馬追は私の人生の生きがい。
7. 年々野馬追遂行が難しくなっている。後継者育成が急務である。
8. 野馬追騎馬武者の避難者が多く、彼らはその度に故郷に戻ってくる。



津波に流された屋敷



津波跡地で見つけた肩章



見知らぬ東京の弁護士さんから届いた鎧兜一式



震災の年「鎮魂と安寧」祈願

私は、菅野氏に2回取材した。
穏やかな笑顔で、辛い体験を話された。たった一人になったけれど、何でもこなしていた。
話始めると止まらない。写真を出してきて説明する様子は、武士になり切っている。先祖代々、野馬追に関わって来ただけに半端でない武士魂に感服する。
2011年『鎮魂と安寧』に至る経過は、断腸の思いだったと推測。

その2 家族総動員《野馬追50年》

ゆきお

今田為夫氏(81才) 原町区 元中郷郷大将

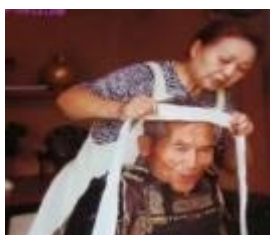


父親・息子・孫三代野馬追出陣 郷大将今田氏 お供5人 九曜の旗ざし



自慢の愛馬

体躯が良く、度胸が据わっている
数々の賞を取っている



今田家 陰の功労者
奥様 三日間、三人の着付け、料理、
来客接待など休む暇がない
休む暇がない。

《野馬追に掛ける人生》



野馬追の生き字引

ゆきお

今田為夫氏 連続 50 回野馬追に出陣
中ノ郷(原町区)侍大将拝命。多くの騎馬武者育成に尽くす。その後
功労者として威風堂々の出陣。
アメリカ・ニュージーランド・ハワイ等から野馬追の招聘。
出陣する一行のまとめ役。国内からの要請も多く、多忙を極めた。
震災に遭遇し、存続に陥った。仲間たちとその危機を乗り越えた。
鎧のほつれを直す。鎧づくりの名人の教えを受け今や玄人。
鎧直しを依頼されるほど。 今田家に並ぶ甲冑は、すべて名品だ。
・・・野馬追の話は尽きない・・・

その3 《福島県立相馬農業高校 馬術部の活躍》

福島県立高校には、馬術部 5 校。学校で馬を飼育しているのは 3 校。
相馬農業高校は最も歴史が長く、これまで各種多くの大会で障害馬術優勝杯を手
にしました。また優秀な馬術選手を輩出しました。

全日本高等学校馬術競技大会に 36 回の出場、平成 9 年全国制覇を成し遂げました。「東日本大震災」
により休部となったが、平成 28 年活動再開。相馬地方の風土に培われて、若い高校生が育っています。
相馬野馬追に出陣しています。

★ 馬術部活動のテーマ・・・「命を通して学ぶ」 人馬一体



全国大会出場 選手 4 名

《活動内容》

- ・部員 7 人 男子 4 人 女子 3 人
- ・サラブレッド 2 頭 ブリジャール リーチザメール
- ・部活動 16 時～18 時 その後馬の手入れ 1 時間
- ・馬の手入れは、365 日欠かさない
- ・練習メニュー

馬上体操 基礎運動(速歩・駈歩)

障害飛越練習(コンビネーション・コース走行)

・指導

1. 馬術を通して「人間力」を高める
2. 物言わぬ馬を観察し、何を求めているのかを考える
3. 生物である馬を自分たちで管理することで、責任感と忍耐力を養う
4. 毎日朝早く送迎をくれる保護者、ご指導いただく OB への感謝

急な災害に



厩舎に雨水流入
足で水かき(遊び)する



ポンプで排水作業をしても、排水量を超える雨量で厩舎内に雨水流入。3 年
生の部員 1 名が保護者の車で駆け付けた。01:15 頃ようやく雨が止み、排水
作業、濡れた敷料の排出、新しい敷料の補充を行った。すべての作業が完了
したのは 03:00 だった。
この日、南相馬市は大雨洪水警報。

9 月 8 日(金)深夜、台風
13 号による線状降水帯が発生
し大雨となった。
23:45 二顧問が厩舎に着くと、
低い厩舎内に雨水が入り始め
ていた。

会報をご覧いただいている皆様へ

福島環境カウンセラー協会に加入し、一緒に学習したり活動したりしませんか！

- ・ 当協会は、環境カウンセラーの集まりですが、環境カウンセラーでない方も加入いただけます。会員になっていただくと、学習会の参加費の割引などがあります。
- ・ 環境カウンセラーを目指している方の加入も歓迎いたします。
- ・ 入会金、年会費は以下の通りです。

(1) 入会金 正会員 500円、賛助会員 500円、学生会員 0円

(2) 年会費 正会員 3,000円、賛助会員 1,000円、学生会員 500円

あなたも環境カウンセラーになってみませんか？

環境カウンセラーは、これまで仕事やボランティアで取り組んできたエコ活動や知識を活かして、エコな視点で多くの人と未来をつなげていくリーダーです。環境カウンセラーに登録すると研修会の受講や、環境カウンセラー同士の交流・情報交換を通して、活動の幅を広げることができます。

(申請・登録・更新等にかかる費用は無料です。)

環境省サイトより引用

[環境カウンセラー・環境教育・環境学習・環境保全活動 \(env.go.jp\)](https://env.go.jp/)



<その他の活動>

1. 会報の発行 5月19日に発行。会員へ配布、福島県、その他行政機関などへ配布。
2. ZOOM会議実施 対面以外への対応として、ZOOM利用での理事会を実施。
3. メーリングリストによる情報発信 内容は、会員への連絡、イベント案内、環境情報等。
4. ホームページでの情報発信 (<http://fec.jyokamachi.com/>)



会報の公開、事業計画の公開。 省エネセミナーの参加募集。

NPO法人 福島環境カウンセラー協会報 (FEC協会報)

第15号 発行日 令和6年5月19日

発行 NPO法人 福島環境カウンセラー協会

発行責任者 相楽昌男 / 事務局長 新山敦司 / 編集担当 相楽昌男、新山敦司

お問い合わせ先：963-8862 福島県郡山市菜根5-17-14

Mail : bbwaiku@kih.biglobe.ne.jp 会長 相楽昌男